鎧橋 随想（順不同）

父と母のこと

日本アクロス　常務　佐藤　健二

最近、といっても2カ月位になるだろうか、朝、随分早く目が覚める。時間を持て余し夜明け前の未だ暗い中、犬をつれて散歩に出ます。

家に帰り、仕事のことや会社のこと、自分の人生のことなど考えていると、亡くなった父と母の位牌が目に留まった。「そうだ、しばらくお供え物、お茶も自分でやっていなかったなー。親不孝だなー」と思い、取りあえずお茶を供えました。父は普通の田舎の大工の棟梁、母は父の顔も見ずに親の決めた相手に従順に嫁いだ人でした。

特別に裕福でもなかったが、嘆いたり不服に思うほど貧乏でもなかった。私が未だ小さい頃、遊びに夢中になって瞼の上に傷を負い、夥しく流血した時、連絡を受けた父は即座に振り鉢巻で私を背負い、自転車に飛び乗り、医者に運んでくれた。その背中の温かみ、逞しさそして優しさ。

大学を卒業するとき、「何があっても田舎に帰ってきて兄弟でとうちゃんの跡を継いではダメ」と釘を刺した母の家族を思う先見性、「新聞に載って後ろ指をさされるようなことだけはしないでくれ」と単純明快な教育を施してくれた母。親父、お袋ならどのような助言をくれるだろうと考えながら手を合わせる毎日である。

神戸イズム

ユニテックス　執行役員　上東　武彦

神戸元町に、行きつけの喫茶店がある。黒縁眼鏡にボサボサ頭、しかし、なかなか男前の渋いマスターがいる。それでいて、言動はどこか笑える。その「なぜ？」と感じさせる行動の背景には、いろいろ理由があるのだろうが、かなり直感的だから、他人には時々理解しにくい。

マスターは大の映画ファンでもある。実際、数々の名監督がこの店を訪れているし、マスター自身も役者として映画の出演依頼を受けたことがあるらしい。店はマスターの手作り。前の店は震災で潰れ、震災後「えいやっ！」と自分ですべてトンカンと作った。

店の壁には映画のポスターと、マスター自身が撮った白黒写真が飾られている。マスターとの会話の面白さはもちろん、店は独特の雰囲気に包まれて、口にするもの、見るもの、聴くもの、客も含めてその空間にあるものすべてが調和している。

互いに何も垣根がなく、いろんな刺激がジャンルを簡単に飛び越える。私のように芝居をしていなくても、山と海に挟まれたこの地で自分の中に何だか「芸術家肌」を見つけたような気分にさせてくれるのはとても嬉しい。私は、これを正統派「神戸イズム」と敢えて評言したい。

家庭

アステム　管理部長　田中　省吾

ある調査によると全国で、フリーターが200万人、ニートが60万人、児童虐待が3万件とのデータがあるそうです。

私も妻と高三、高一の子供が居る4人家族で、平均的な世帯を持つ身ではあります。私は家庭の一つの見方として、子供が生まれて、学校に行き始め、やがて成長して大人になるまでの根っこの場所だと思います。

とは言っても、仕事とかこつけて、自身があまり家に居る時間が少ないので、その事については、女房に注意をされそうだが。

さて、当業界は、昨年5月に商取法が大きく改正され、清算機構の設置、取引員の純資産額規制比率の厳格化、コンプライアンスの徹底等のことで、変革期の真っ只中だと実感しております。

私も業界の発展を考える一人として、件の人達が当業界の魅力を感じ、多くの方々が業務に携われば、前記の数字も減少し、仕事に熱中する人が増えることでしょう。

そうなれば、世の中ももっと活気が出て、厭な事件や心配事もなくなり、将来の夢とか展望が開けていくような気がするのは、私の都合の良い願いでしょうか。

鞍馬山

朝日ユニバーサル貿易　執行役員　上竹　光

休日はゴルフ中心のリフレッシュで10数年過ごしてきましたが、単身大阪に赴任してからはもっぱら散策を重ねる日々になりました。関西圏の歴史を感じる処を探訪することが何よりも楽しみな今日この頃です。

昨年7月から9月にかけて奈良・大和路の古墳を訪ね、11月には大河ドラマ『義経』にあやかり紅葉狩りを兼ねて鞍馬山を訪れました。

従来、車での移動が常でありましたが、電車・バスを乗り継いでの散策は車では味わえないものを多く経験した次第です。

京都から叡山電車で鞍馬まで、そして山門の前に立つとピーンと張り詰めた空気で武者震い!!。山門から本殿まではケーブルがありますが、もちろん徒歩を選ぶ。

と決心したのは良いのですが、50メートルも歩くと参道の急勾配で息も途切れがち。決して大袈裟ではなく胸が地面にくっつきそうな位である。ひっそりとした山中の冷気でありながら汗ばんでくる。

本殿から見渡す山並は紅葉に萌え、心の底から気分が高揚。牛若丸がこのような処で修行した精神力は、後の活躍を裏付けるのに十分な説得力あり。

川を眺めて

大平洋物産　管理部長　武田　照雄

私は、川が好きでよく川を眺めに行く。東京近郊の川の中では特に多摩川が気に入っている。この川も30年ほど前は「死の川」と呼ばれ、魚や昆虫、そして水鳥などが生息できない川であった。

ところがここ数年は澄んだ川になり、水鳥や昆虫もどこからとなく舞い戻り、鮎までもが群れをなすようになってきている。自然の摂理と人間の科学が融合し、素晴らしい風景となっている。

振り返って私たちの商品先物取引業界を想うと、私が業界に入ったころと比べ、問題の多い業界になってきているのではなかろうか。30年前を想うと忙しい中にも、何かほのぼのとした人間関係があり、和気藹々と仕事を行った記憶が蘇ってくる。

それが今では、5月に施行された改正商品取引所法によって身動きが取れないようになってきている。確かにいろいろな問題を抱えていたことは事実であるが、私には30年前の多摩川と重なってしまう。

この先、私たちは一致団結し、法令遵守の精神をもって、澄んだ多摩川のように浄化していかなくてはならないと感じている。新たにこの業界に入社してくる若い人たちの将来のためにも。

出会い

ライブドアコモディティ　営業部部長　栗屋　成明

先日、自宅の書斎にある本棚を片付けていたとき、ふと懐かしい写真を手に取りました。

そこには社会人に成り立ての初々しく体格も60キロそこそこの私や、多くの先輩、同僚に囲まれた春の花見、秋の慰安旅行、海外視察旅行、ゴルフコンペや歓送迎会などがあり、時間の経つのも忘れるくらい見入りました。

師と仰ぎ今でもお付き合いさせていただいている方、時として相談相手になってくれる先輩や同僚、業界からは離れてしまったがいつも近況報告を絶やさない後輩など。

数多くの方々と出会い、助言をいただき、今の自分がいるのだなぁと思いました。

弁当箱の大きさから手のひらサイズになった携帯電話、手紙からEメールへと、私たちを取り巻く環境の変化は目まぐるしいものがあります。

デジタル化のスピードを受け入れつつも人との出会いを大切に私はこれからも生きて行きたいと考えています。

新たな年を迎えて後進の指導や自らへの挑戦をしつつ、今年もどんな出会いがあるのかと思うと胸が躍ります。

拝見　色紙二題

先物協会には著名人からいただいた色紙が数々ある。その中から二点を見ていただこう。

スポーツキャスター青島健太氏による「Be blue　青くありたい」は平成12年10月25日の日付がある。ご自身の名前にちなんで、「青くありたい」とは、いつまでも青年らしい若い志と共に生きたい、といった趣旨だろう。

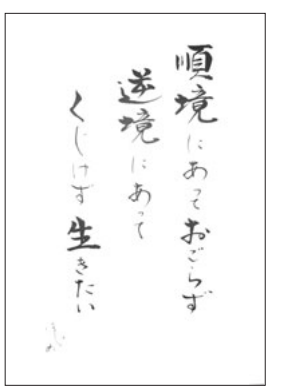
青島 健太・安田 甫氏

先物協会事務局所蔵

青島氏は埼玉県立春日部高校―慶大―東芝を経てヤクルトスワローズに入団、公式戦初打席でホームランの快挙、日本人選手の嫌う背番号4をつけた反骨精神の持ち主でもある。

実は、この青島氏は当協会が起用した初めてのイメージキャラクターで、平成12年11月から翌年3月まで日刊紙でシリーズ広告を打った時のものだ。キャッチコピーの「誤解していました商品先物取引。」が大きな話題を呼んだのは記憶に新しい。

「順境にあっておごらず、逆境にあってくじけず生きたい、甫」。1年前に亡くなった米常商事会長、安田甫氏が病魔と闘いながら先物協会のために揮毫していただいた。



安田さんは「祥雲斉」という雅号を持つ書の大家であられたのはよく知られている。泉下の安田さんがいま逆境にある先物業界を励ましてくれているように思えてならない。

そうだ、くじけてなるものか。逆境の先には順境が待っているのだから。まさに順境と逆境は糾（あざな）える縄の如し。悲観も楽観もせず、先物新時代を切り開いていく年である。

関西商取

おコメと関連書籍プレゼントを継続

関西商品取引所は、申請中のコメ先物試験上場の標準品を「新潟一般コシヒカリ」と「きらら397」に変更したことから、PRの一環としてコシヒカリ5kgと「コシヒカリ物語」（中央新書）のセットを30名に、きらら10kgと「きらら397の挑戦」（新潮新書）のセットを30名に抽選でプレゼントすると発表した。

応募方法はハガキ以外に、Eメールやホームページ上の申込み用紙を使いFAXでも応募できる。今回の締め切り日は2月20日だが、すでに応募数が予定を大幅に超えているため、同取引所は3月から供用品のコメを対象にして、あらためて募集を行う方針。

東穀取

コメの先物取引シミュレーション体験

東京穀物商品取引所は、コメの試験上場に備えて、ホームページのMr.トーコクの「農産物先物取引」講座の初級者向けシミュレーションにコメを追加した。

このシミュレーションでは、集荷業者、卸業者、生産者、メーカー、投資家の5パターンから選択して体験できる。取引仕法はザラバ取引。

初級者向けに続いて中級者向けも作成中。

事務局だより

昨今、証券取引における違法行為事件が社会の耳目を集めています。

市場経済原理を重視する現政権の政策理念に事件の遠因があるとする論客もいるようですが、市場経済システムが優れたものであることは現代史が物語っています。

国家という枠組みがなくなり、世界が経済情報を一元的に管理できる時代になるまでは、市場経済システムの優位性は不変だと思います。

そうした意味で、多種多様な経済情報の集積の場である商品先物市場は、半永久的にその存在意義を持ち続けることでしょう。